

平成16年島根県立三瓶自然館研究発表会について

はじめに

島根県立三瓶自然館では、調査研究を、展示や資料収集保存などの各種博物館活動の基幹的機能として位置づけている。

現在、地学系、天文系及び生物系の学芸系職員が、県全域の自然史や生物多様性の解明のみならず、自然環境保全に関する調査研究活動にあっている。しかし、これまで、これらの研究から得た知見・学術成果を積極的に公表する機会を設けていなかった。

そこで、平成16年には、これまでに蓄積された調査研究の概要を広く県民の皆様に公表する機会として、また、島根の自然環境を考える一助となることを期待して、研究発表会を下記のとおり開催した。

発表者及び発表題目

第1回（平成16年3月3日）

場所：島根県立三瓶自然館レクチャールーム

- 森本直知 「環境問題の変遷と三瓶自然館の役割」
竹内幹蔵 「天体デジタル画像・映像の撮影」
蔑矢崇司 「三瓶小豆原埋没林の古植生再現にむけて～古土壌中の植物遺体～」

第2回（平成16年6月16日）

場所：島根県立三瓶自然館レクチャールーム

- 福岡 孝 「三瓶火山の活動から見た三瓶小豆原埋没林と佐田町・横見埋没林」
大畑純二 「島根のコウモリ」
井上雅仁 「姫逃池の植生と水位回復工事前後の変化」

第3回（平成16年9月9日）

場所：島根県立三瓶自然館レクチャールーム

- 中村唯史 「ヤマタノオロチ斐伊川の古地図を探る」
皆木宏明 「イズモコバイモの訪花昆虫相」

第4回（平成16年12月16日）

場所：大田市商工会議所

- 松井整司* 「石見の大震災」
星川和夫*・中園洋行*
「三瓶山のウスイロヒョウモンモドキ：モニタリングの結果と保全対策」
福岡 孝 「佐田町・横見埋没林における三瓶火山噴出物について」
坂本 巖* 「環境と生物社会」
大畑純二 「日本のモグラ・島根のモグラ」

*印は館外研究者

【各研究発表要旨 次ページより掲載】

今後の展望

当初は、参加者をほぼ館内職員に限定し自然館内で開催していたが、徐々に参加範囲を広げ、第4回には会場を大田市内に移し、県内の多くの方々に参加いただいた。また県内の著名な研究者の発表も交えたことで、研究テーマの広がりをみせ、参加者にも好評であった。

今後も、当館学芸系職員は各専門分野において調査研究をすすめ、県内の研究者のご協力をいただきながら、一人でも多くの方に島根の自然史や生物多様性の解明、さらに自然環境保全に興味関心をもって頂けるよう、一層の努力をしていきたい。

さらには、本発表会が、これまで充分とはいえなかった県内の自然環境にかかる研究発表の場となり、館内外の研究者のみならず、広く自然環境に興味をもつ人々が情報交換できる機会となるよう鋭意努力していきたい。

最後に、本発表会で、ご発表いただいた島根県地学会顧問 松井整司氏、島根大学教授星川和夫氏、同大学生物資源科学研究科 中園洋行氏、並びに島根大学医学部生命科学講座嘱託講師 坂本巖氏に心より感謝申し上げます。